

手づくり郷土賞受賞記念発表会 ～グランプリ2019～では、令和元年度手づくり郷土賞を受賞した全24団体からプレゼンテーションいただき、手づくり郷土賞選定委員の審査により、一般部門、大賞部門それぞれのグランプリを決定しました。

また、グランプリのほか、会場参加者の投票により、ベストプレゼン賞も決定しました。

〔概要〕

- | | |
|-----|--|
| 日時 | 令和元年12月14日(土)12時30分～16時10分 |
| 場所 | 政策研究大学院大学 想海樓(そうかいろう)ホール
(東京都港区六本木7-22-1) |
| 内容 | 1) 令和元年度「手づくり郷土賞」選定団体による
活動プレゼンテーション(24団体)
2) グランプリ(一般部門、大賞部門)の発表、講評 |
| 参加者 | 約130人(参加団体、一般参加者等) |

発表会の様子



受賞団体からの感想

■グランプリ2019(一般部門)

おとがワ！活用実行委員会



一般部門のグランプリという大変光栄な賞をいただき、ありがとうございます。

公と民が連携してまちづくりに取り組んでおります。公は黒子に徹して、頑張っているのは民だと思っております。

公と民が連携した取り組みが評価されて、ありがたく思います。これからもまちづくりに励んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

■グランプリ2019(大賞部門)

松代文化財ボランティアの会



大変名誉ある賞をいただき感謝しています。松代文化財ボランティアの会は今年で20周年を迎え、これまで394名が活動してきました。

長野市教育委員会と松代文化財等管理事務所の職員の皆さまの絶大なる応援があつて今日を迎えていると思っております。

みなでいただいた大賞でございます。本当にありがとうございました。

■ベストプレゼン賞2019

へいばら

平原区自治会 むらづくり委員会



ご来場の皆さまの投票で選んでいただきました。五十数名の小さな村ですが、受賞を聞いて住民も喜んで作業をしてくれるかと思っております。小さなチャレンジですが、これからも住民一丸となつて頑張つて続けていきたいと思っております。またホームページでも発信していきます。ひらがなで「へいばら」と検索すると出てきます。これからも見守っていただきたいと思っております。

グランプリ2019(一般部門):おとがワ！活用実行委員会／愛知県岡崎市

川で遊び、川に学び、川と暮らす「おとがワ！ンダーランド」

岡崎市街中心部を流れる一級河川乙川は、治水事業によって単調な河川景観となり、川遊びもなくなり、徐々に使われない空間となっていた。平成27年度に水辺空間の再開発を目的とした環境整備にあわせて、平成28年度から市民・民間事業者が主体的に水辺空間を活用する社会実験「おとがワ！ンダーランド」が始まった。この社会実験により、事業者・団体と連携した物販や観光船、カヌーイベントなどの水辺の多彩なイベントにより、年間7,000人の来場者や、日常的な河川利用者を増やす効果を確認している。



観光船 運行状況



水辺のナイトマーケット

グランプリ2019(大賞部門):松代文化財ボランティアの会／長野県長野市

城下町松代に学び、城下町松代を育む

文化財の宝庫である長野市松代町の歴史的建造物において平成12年から来訪者の接待や案内等を開始。ボランティアガイドは内外から高い評価を得て定着しており、平成30年度は延べ8,215人の活動により約24,000人のガイドを実施した。文化財の調査・研究やガイドブックの作成、ワークショップの開催など建造物等の魅力を掘り起こす活動は“社会資本を活かすソフト”として町全体に波及し、城下町を面として活用する“城下回遊型”にシフトするなど松代町の地域づくりに大きく寄与している。



真田邸でのボランティアガイド



「真田宝物館であそぼ」甲冑体験

ベストプレゼン賞2019:平原区自治会 むらづくり委員会／奈良県下市町

みんなで取り組む、薬草とハーブのむらづくり

平原地区は江戸時代から、薬草栽培が盛んな集落であったが、人口減少・少子高齢化が進み、薬草畑も耕作放棄地となっていた。そこで、住民一丸となって、もう一度活気のあるむらづくりに取り組むことを決心。県道沿線を中心に耕作放棄地でのハーブや花を植栽。そのハーブの栽培・収穫・加工で耕作放棄地の解消、花等による道路景観の向上、新たな特産品が創出され、開店したピザハウス(5月から11月まで月2回営業)は毎回約160枚のピザが売り切れるほどの来店があり、活気と賑わいの創出など、県道を中心に地域づくりが進んでいる。



県道沿いに植えたハーブの摘み取り



住民参加で建設されたピザハウス